

早いもので、今年の「ぞうさん」の表紙も、あと一号で終わりです。

十二回にわたり、連載していただきました。河邊泉先生の、「保育への視座」も、今月号が最終回です。具体的な保育場面を例にひき、保育者として、どこに視点をおいて子どもと接したらよいかということを、ていねいに教えていただきました。二年間、どうもありがとうございました。又、続編を書いていただけることを楽しみにしております。

\*

自然の作る音には、様々な音楽があります。小鳥のさえずり、風の音、波の音、木々のざわめき、小川のせせらぎ……。そんな自然の作り出す音の中から、水のしずくのおちる「びとっ」とか「ポトン」とか、そういう音に魅かれて音楽を作った人がいます。神山純一さんという作曲家です。

ショパンは雨のしずくのイメージを「雨だれ」という曲に表しました。又、

水琴窟という、地面に甕かめをうめこんで、そこに水滴をおとし、甕に響く水の音を楽しむという仕掛けを考えた庭師もいました。昔からひとしずくの響きに魅せられた人々は少なくありません。

神山さんは、本物の水滴のおちる音をシンセサイザーに一音ずつ記憶・録音させ、そうやってできた音階をメロディーにのせ、水滴の音楽を作りました。シンセサイザーでも、電氣的に合成して簡単に音を作り出すことはできますが、それは使わず、生の音を音階別にひろったというのですから、さぞ根気と神経を使う作業だったことでしょう。

誌面では、お聴かせできないのが残念ですが、水琴窟のような人工的というか金属的なはりつめた音とはちよつとちがう、とても丸い、心安まる響きとメロディーです。

自然で、何とも美しい、水の調べ。秋の夜長に……、心洗われる一枚のCDです。

(K)

## 幼児の教育 第九十二巻 第十一号

(一九九三年十一月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

平成五年十一月一日 発行

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

東京都港区三田五―二一―

発売所 株式会社 フレーベル館

東京都文京区本駒込六―一四―九

振替口座 東京九一―九六四〇

電話〇三―五三九五―一六六〇四

●本誌御購読の御注文は発売所フレーベル館にお願いします。

●万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。